

製品名: PIAS 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16119**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	72kDa

抗原情報

遺伝子名	PIAS1
別名	PIAS1; DDXBP1; E3 SUMO-protein ligase PIAS1; DEAD/H box-binding protein 1; Gu-binding protein; GBP; Protein inhibitor of activated STAT protein 1; RNA helicase II-binding protein
遺伝子 ID	8554.0
SwissProt ID	O75925
免疫原	抗血清はヒト PIAS1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

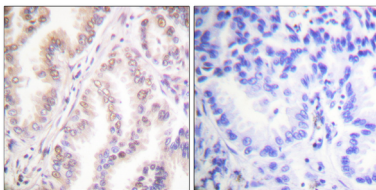
この遺伝子は、活性化 STAT タンパク質阻害因子 (PIAS) ファミリーのメンバーをコードしています。PIAS タンパク質は SUMO E3

リガーゼとして機能し、標的タンパク質のSUMO化を媒介することで、多くの細胞プロセスにおいて重要な役割を果たします。このタンパク質は、STAT1経路や核因子κB経路など、数多くの細胞経路の転写コレギュレーターとして中心的な役割を果たしています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2016年3月],domain:LXXLLモチーフは転写コレギュレーターの特徴です。 ,domain:SP-RING型ドメインは、EKLKのSUMO化を促進するために必要です。 ,function:E3型小分子ユビキチン様修飾因子 (SUMO) リガーゼとして機能し、UBE2Iと基質との相互作用を安定化させるとともに、SUMO係留因子としても機能します。STAT経路、p53経路、ステロイドホルモンシグナル伝達経路など、様々な細胞経路における転写共調節として重要な役割を果たします。この転写共調節、トランス活性化、またはサイレンシングの効果は、生物学的状況によって異なります。 ,経路:タンパク質修飾、タンパク質のSUMO化。 ,PTM: SUMO化。 ,類似性: PIASファミリーに属します。 ,類似性: 1つのSAPドメインを含みます。 ,類似性: 1つのSP-RING型ジンクフィンガーを含みます。 ,細胞内局在: CSRP2との相互作用により、細胞骨格に沿った部分的な再分布が誘導される可能性があります。 ,サブユニット: SUMO1およびUBE2Iに結合します。IFN-α刺激後、AR、CSRP2、JUN、MDM2、NCOA2、TP53、RNAヘリカーゼII、およびSTAT1二量体と相互作用します。SP3と相互作用し、SUMO修飾されている場合に特に顕著である。マトリックスまたはスキャフォールド付着領域 (MAR/SAR) として知られるATに富むDNA配列に優先的に結合し (類似性による)。PLAG1と相互作用する。KLF8と相互作用し、SUMOライゲーションとKLF8の転写活性の抑制、および細胞周期のG(1)期への進行の抑制を引き起こす。 ,組織特異性: 多くの組織で発現するが、精巣で最も高いレベルで発現する。 ,

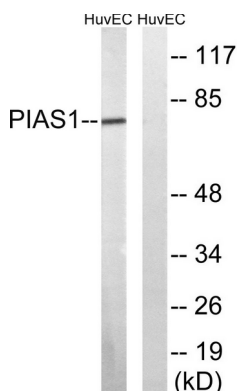
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、Jak_STAT、がんにおける経路、小細胞肺がん、

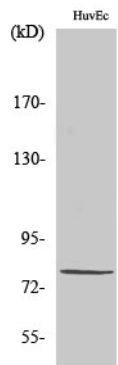
画像データ



PIAS1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



PIAS1抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PIAS 1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。